

現代の寺子屋 学び効果絶大!?

寺を教室として活用する学習塾の取り組みが京都市内で広がっている。塾側は、寺が持つ独特の安心感に加え、仏像に見つめられているような緊張感が学習効果につながることを期待する。寺側も子どもが集まることで地域とのつながりが深まればと願いを込める。子どもからも好評で、かつてあった「寺子屋」のように、寺が持つ「場」の力が再評価されつつあるようだ。

学習塾、京で活用「仏様の前緊張感」

全国で学習塾「花まる学習会」を展開する「ふゆゆ」(本社、埼玉)は2019年に寺からの要請を受けて京都市内で第一号の教室を開いた。現在、市内にある3カ所はいずれも寺が会場だという。

今年4月から教室になった下京区の明覚寺では、本堂に机を並べて約10人が算数や作文に取り組んでいた。同社は「静かな環境で靴を脱いでリラックスでき、子どもも集中度合いが違ふ」と学習面での効果について語る。

一方、下京区のNPO法人「寺子屋プロジェクト」は、14年から「テラスクール」を運営。現在は寺と真宗大谷派の交流施設の計3カ所を会場とする。右京区の妙心寺塔頭・寿聖院では小中学生が本尊に向かってそれぞれの学習に取り組んでいた。

異年齢が学び合える場づくりを目指す同法人は「古くから人の縁を大切にしてきたお寺は幅広い年齢の人同士が学び合う下地がある」と指摘。大谷派と連携し、各地の寺がプログラミング教室などを開く際の支援にも力を入れる。

寺の本堂を教室にした「花まる学習会」の授業風景。畳の上で学ぶことを評価する保護者も多い(京都市下京区平野町・明覚寺)



生徒からは「家と違って気持ちがあすっきり

寺側、地域とつながり 子「気持ちすっきり」



本尊に向かって机を並べる「テラスクール」の教室風景。妙心寺境内だけに夜は静けさに包まれる(右京区花園妙心寺町・寿聖院)

する「学校より気持ちがあすこむ」との声も。講師からは「仏様に見られている気がして、大人でも背筋が伸びる」「お寺では悪いことをできないという印象が強い。保護者にも安心感を持ってもらえるのでは」と寺が譲す特別な雰囲気や評価する意見が聞かれた。

明覚寺は「地域の人の心にお寺が必要だから、残したい」と思ってもらえる存在になりたいと考えていた」と寺の活用が広がることを歓迎。「迎える保護者にも悩みがあると思う。あいさつなどを通じて知り合い、相談してもらえれば」と語る。

寿聖院は「本堂は広いのに、もったいない」と思っていた。子どもたちから寺に出入りする中で、大人になって困った時、気軽に來られるようになってほしいと話している。

(京都市)